

遠藤吉二郎 とよへつじろ 海産學者、理學博士。明治七年生れ、大正十年二月十四日歿（一八七五—一九二一）。號シサヅノメカリ、平生。岡村金太郎の教へを受け、自ら潜水してその生態を實地調査、また凶作と海の低溼の關係を力説したることなども知られ、『海産植物學』等關係著書論文多數を残した。岡村は、次シシ海産學の權威。

一方我が國の西洋生物学思潮を反撥し、ハ歐米人の思想の缺點を遠慮なく罵倒し日本の國體と歴史とを鑑みて日本固有の思想を飽くまで保存すべしと主張した。『生物學的人道觀』（明治四十四年刊）を始めとする論書『嗚呼西洋』（大正二年十一月十九日博文館）、『歐洲文明の没落』（大正三年十月二十一日富山房「時事叢書」）、『西洋中毒』（大日本社編、大正五年九月二十八日二西社）、『日本民族の爲めに』（大正十年六月十九日天祐社）を著した。

